



◇◇◆◆◇◇◇ 国際通貨研究所メールマガジン（第 19 号 2013/10/10 発行）

◆◆◇◇◇ Institute for International Monetary Affairs (IIMA)



<http://www.iima.or.jp/>



※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから→ <http://get.adobe.com/jp/reader/>



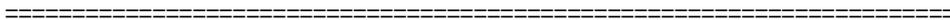
1. 理事長 行天豊雄のコラム 『出口の迷路』

QE3 による国債買入れの減額をめぐる FED の迷走はあらためて米国経済回復のプロセス
のもたもたぶりと、QE 型の金融緩和政策からの出口の難しさを浮彫りにした格好だった。
FED が土壇場で弱気になったのは雇用市場の回復に…

（株式会社マナーパートナーズへの寄稿）

（全文はこちらから）

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/20131010gyoten.pdf>



2. 新潟大学 国際センター 教授 IIMA 客員研究員 阿波村稔のコラム

『「グローバル人材と教育」：大学の果たすべき役割

～求められる人物像と語学能力・コミュニケーション能力に関連して～』

2020 年オリンピックの東京開催が決定し日本の若者のスポーツにかける思いは盛り上
がりを見せている。教育に携わる者にとっては、ここ数年来叫ばれてきた「若者の内向
き志向」がよい意味で改善されることを望んでやまな…

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

（全文はこちらから）

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/20131010awamura.pdf>

■ 購買力平価グラフの更新

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

■ 今月の新着レポート

1. 「世界市場変動リスク指数（IIMA Global Market Volatility Index : IIMA-GMVI）の作成および公表について」

国際通貨研究所では、グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数として IIMA Global Market Volatility Index（リンク先）を開発しました。これは、世界の主要国の株式、債券、外国為替市場の日々の相場変化率を合成して、世界の金融市場の総合的な相場変動率を算出し指数化したものです。指数が高いほど市場が動揺し投資家がリスク回避的になっていることを示します。毎週初にアップデートします。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NL2013No_28_j.pdf

2. 「ドバイ債務問題対処の進捗状況～IMF 4条協議スタッフ・レポートを中心に～」

アラブ首長国連邦は2009年11月のドバイショックによって大幅なマイナス成長を経験し、国際金融市場にも波紋が及んだ。最近では海外からのマネーや人も戻りつつあり、不動産部門の回復の兆しも見え始めているが、それがバブルの再来に向かうリスクとならないか注意を要する。ドバイショックから4年が経とうとしている中、ドバイ債務問題の現状と課題を IMF 4条協議スタッフ・レポートを中心にレビューする。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NL2013No_27_j.pdf

3. Reform of Chongqing's Hukou System

: Will It Help Stimulate Domestic Demand?

2013年7月10日発表の国際金融トピックス No. 239 「重慶市の戸籍改革は、内需拡大につながるか」の英文版。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NL2013No_26_e.pdf

4. 新興国の為替変動要因についての一考察 ～重要なネット対外投資ポジションの状況～

米国の金融緩和の巻き戻しをにらみ、新興国通貨の変動が激しくなっている。経常赤字が拡大している国が狙い撃ちにあっているように報道されているが、かならずしも経常収支の動向と通貨の売られ方はリンクしていない。EUが開発した「マクロ不均衡手続き（MIP）」を参考に、新興国の不均衡を検証したところ、ネット対外投資ポジションの赤字幅が大きい、または悪化している国で、通貨の下落率が大きくなっていた傾向が観察できた。

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/243_j.pdf

5. 「アジアの信用格付けの問題点と今後のあり方について

～クロスボーダー債券投資拡大のための方策は何か～

アジアでは各国の官民による取り組みにもかかわらず、債券市場の発展、なかでも社債市場拡大の成果は限定的であり、その背景の一つが格付け機関や証券取引所などの金融インフラが不十分なことである。ASEAN プラス 3 地域のクロスボーダー債券投資を促進するため、地場格付け機関の信用力を高めるためにより多くの努力が求められている。そのための方策として、企業情報開示などのルールや制度の収斂や公式信用情報を掲載するウェブサイトの創設が考えられる。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NL2013No_25_j.pdf

6. 「Shadow Banking in China and Expanding debts of Local Governments」

2013年8月5日発表のNewsletter2013年第23号「中国のシャドーバンキングと拡大する地方政府債務」の英文版。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NL2013No_23_e.pdf

■ 今週のキーワード

★ボラティリティ

★IMF4条協議

★ネット対外投資ポジション

★信用格付け

レポートに関連する専門用語の参照はこちらから

<http://www.iima.or.jp/Docs/keyword/keyword.pdf>

■ 今月の IIMA

朝方の冷え込みに思わず驚くことがあるのは、今夏の記録的な暑さを身体がまだはつきり記憶しているせいでしょうか。ようやく過ごしやすい季節となりました。

IIMA では、先月下旬以降、研究員が講師を務める講義が3つの大学において開講し、最初に学生に対してガイダンスを行いました。これから半年間の講義において、日頃の調査研究の成果を学生に披露する一方、大学や学生との交流を通じて、新たな研究視点を得るきっかけにしたいと思います。

10月はIMF・世銀総会の季節です。IIMAからも今年の総会が開催されるワシントンに出張し、現在のグローバルな金融動向や世界の関心がどこに向かっているのかをしっかりとフォローする予定です。こうした情報収集のひとつの成果が毎年3月の国際金融シンポジウムとなり、内外のシンクタンクやエコノミストと知の交流を図ります。次回シンポジウムについては現在内容の検討を始めていますが、会場選びも検討初期段階における重要なタスクです。調査研究活動の合間を縫って、複数の候補会場に出向き、自らの目でそれぞれの会場の特性を見定めています。開催要領確定には今しばらく時間を要しますが、どうぞご期待下さい。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】

2013年11月12日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

◇発行◇*****

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

***** Copyright (C) IIMA All Rights Reserved. *****